

〔出開帳用文殊菩薩像 公開〕

日時／令和4年6月19日（日）午前10時～12時 場所／松巖寺

鬼無里土倉 文珠堂

文殊菩薩 出開帳

江戸時代、松代城下の蓮光寺にて七年に一度行われていた出開帳



出開帳用 文殊菩薩像

講演「江戸時代の御開帳について」

講師：長野市博物館学芸員 原田和彦氏



智光山 文珠堂



ご本尊文殊菩薩（木曾義仲守護仏）

鬼女紅葉伝説や木曾義仲伝説をはじめ、数々の伝承が息づく鬼無里の地。奥裾花へと続く山間に佇む土倉集落には、平安末期の武将、義仲の守り本尊が祀られた文珠堂がある。伝承によると寿永2年（1183）、義仲が北陸進出の際、守護仏「文殊菩薩」に一巻の掛軸を添えて、土倉にあった薬師堂へお祀りしたのが始まりという。

鬼無里を後にした義仲は、俱利伽羅峠の戦いで平氏の大軍を破り入京するが、寿永3年（1184）粟津の戦いで戦死。その後、信濃国安曇郡仁科荘（現大町市）の仁科盛遠に擁された義仲の第二子力寿丸の一行が、土倉に文珠堂を建てて、薬師堂の文殊菩薩を安置して吊った。

文珠堂内陣には、御本尊文殊菩薩と薬師如来像、弘法大師像が祀られている。御本尊は獅子に乗り剣を持ち四眷属を従えている。これとは別に神輿の金色の厨子には江戸時代、出開帳用に造られた、もう一体の文殊菩薩が安置されている。松代城下の蓮光寺への出開帳は数え年で7年に一度善光寺の御開帳に合わせて行われていた。

【日 程】

9：30～受付
10：00～法要
10：30～11：15 講演
11：15～12：00 公開

主催 松巖寺

後援 文珠堂世話人会
鬼無里観光振興会
木曾義仲ゆかりの会

※コロナの感染が拡大した場合、内容の変更、中止する場合がございます。ご確認いただきご来場ください。

※マスクの着用をお願いいたします。

問合せ：松巖寺

026-256-2061